

松尾寺跡が県指定文化財史跡に

指定されました

醒ヶ井駅から車で約10分。散策道歩いて約40分のところに約1200年前の時代の名残のある松尾寺跡が存在します。新しく県の指定文化財となった松尾寺跡の魅力をお伝えします。

県の歴史的特徴である

山岳信仰を

考えるうえで

貴重な遺構

ご本尊は

航空災害除けで有名

紫の雲の上よりきますてふ

仏の迎い 松の尾の寺

滋賀県は、伊吹山や比叡山をはじめ琵琶湖をとりまく山々に多くの信仰が寄せられ、修行者が集う山岳寺院（山寺）が建てられています。松尾寺は、奈良時代、霊仙山を望む松尾山山腹に、霊仙七か寺のひとつとして建立されています。

浅井家・

石田家などからの信仰も

松尾寺は戦国時代には、浅井長政の祖父である浅井亮政や、石田三成の父親である石田正継らから庇護を受けるなど勢力を持っていました。

また江戸時代には井伊家からの庇護もあり、本坊のほかに50余りの坊院があったなど、湖北を代表する名刹として存在してきました。

松尾寺のご本尊は役の行者が修行されているときに雲に乗って飛んでこられたと伝わる飛行観音像（秘仏）で、本堂上の影向石の上に降りられました。本尊は、航空災害除けの仏さまとしても知られています。

昭和57年の豪雪によって本堂が倒壊し、寺院としてはJR醒ヶ井駅前の松尾寺政所に安置されていますが、旧境内地には石造九重塔や曼荼羅堂などが残る本堂平坦面を中心に30か所を超える坊跡が残っています。これらの坊跡の多くは高さ数m程度の石垣を伴うなど、遺構が良好に保存されています。

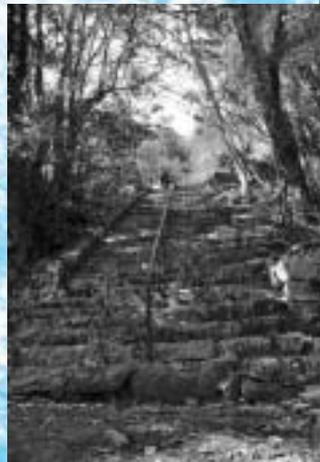
そのため、県の歴史を特徴づける山岳寺院跡のひとつであり、特に湖北地域の中世から近世の歴史・信仰を考える上で欠くことのできない存在であることから今回、県の指定文化財（史跡）に指定されました。



平成3年～10年の発掘調査時の写真。
現在は苔が生えていたりと自然に溶け込んでいます。
(右図は倒壊前の本堂写真)



この坂を登った先に松尾寺本堂跡があります。あと一息！



松尾寺跡の みどころ

ハサミ岩



本堂西側の石段を降りると急に道が狭くなる場所があり、松尾寺で悪いことをすると岩に挟まれると伝えられています。

石造九重塔



背面に鎌倉時代中期の文永7年(1270)の年号を刻んだ造立銘があり、近江多層塔のなかで3番目に古いといわれます。均整のとれた安定感のある造りで、相輪の水烟部に四方仏を現しているのは、わが国ではこの塔一基です。
※国指定重要文化財



醒井養鱒場から散策道を進むこと約40分。明静院跡にある門があります。手前にはベンチがあるので、一度足を止めて休憩をしました。

下丹生の坂口からの参詣道と、西麓にある西坂からの参詣道にある丁石。丁石は寺院の参詣道に建てられた距離を示す石柱で、整備前は倒れていたものもありましたが、現在、近代の丁石はすべて揃っています。
案内板も保存会によってわかりやすいものになっています。



案内版 (整備前)



案内版 (整備後)

松尾寺跡 県指定記念行事

5/15 (日)

見学会

9時〜12時

詳細は歴史・文化財保護室
(☎55-8020)へお
問い合わせください。

講演会

13時30分〜15時

醒井水の宿駅多目的ホール
参加費 無料 申込不要

記念行事にあわせて、5月15日に松尾寺の資料館もオープンします。詳しくは松尾寺まで。(☎54-0120)

松尾寺山でのまちづくり

松尾寺山の登山道を整備、保存、活用活動をすすめられている松尾寺山登山道等保存会代表の江竜喜之さんにお話を伺いました。

「今回、県の文化財指定となったことは非常にうれしいです。史跡として価値を認められたこの松尾寺跡を今後もっと知ってもらうために地域内外でイベントなどの活動をしていきたいです」

保存会活動への応援・お問い合わせなどは代表の江竜喜之さんまで。

代表 江竜喜之さん

☎54-0918
住所〒521-0034 米原市下丹生457



松尾寺跡位置図



●お問い合わせ
歴史・文化財保護室
(ルッチプラザ内)
☎55-8020 ☎55-4556